

焼石・夏油川・枯松沢

T野

メンバー：T野・K林・A原・T中m・T山

2024年7月15日



昨日は丸山沢の疲れと寝不足を解消するため、松島付近をドライブしながら寿司などつまんでのんびり北上し、北上運動公園にある無料のキャンプ場に泊まり鋭気を養った。無料にしてはトイレもあり、整地もされていて充分満足。ただ、入口が分かりにくいので初見で夜行くのは止めた方がいい、おそらくわからないと思う。

7/15

夏油川・枯松沢に向かう。ここも、地元の人に人気があり、記録を読んで以前から目をつけていた沢で、この辺りで日帰りの沢登りの機会があればぜひ行きたいと思っていた。沢慣れたパーティーにとっては、お手頃な半日コースということだが、さて、どうなることやら？

■写真上 特別天然記念物の天狗の岩、石炭華ドームから入溪。

■写真下 夏油川を遡行する。



我々は、今日中に帰京しなければならないので、遅くても 14:00 位には下山したいところだ。つまり、早出は必至である。

4:00 起床で、いつものようにコンビニで朝食・買い出しの後、出発地点の夏油温泉に向かう。山道をひたすら登って行くと、突然開け、大きな建物群が現れる。よく見るといくつかの建物の集合体のような感じで相当規模が大きい。ただ、多くの建物は老朽化していて使用していないようで、全体的にはかなり寂れた雰囲気であった。



夏油温泉では入溪の仕方が分からず、しばし右往左往……。宿の人から経塚山登山道から行くことを教えてもらい、それに従う。登山道をしばらく歩くと川に降りていく踏み跡があり、それを降りていくと、特別天然記念物である天狗の岩という石炭華ドームがあり（なんでも日本一の石炭華ドームだそうだ。）ここから入溪する。溪はラバーでもほとんど滑らず快適に遡行ができそうだ。



なんとなく、すぐに枯松沢出合があると勝手に思い込んでいたが、これがなかなか遠い。（地図を確認すれば明らかなのだが……。）

さらに堰堤越えが2か所あり、ふたつ目の堰堤は地形が急峻で、固定ロープだけでは安心できずロープを出すことに……。夏油温泉から枯松沢出合までの遡行で約1時間40分を要した。



■写真上 枯松沢は入溪早々
ゴルジュが始まる！！

■写真中 狭いゴルジュをズ
ンズン進む！！

■写真下 水と親しみながら
楽しく登る！！

枯松沢に入溪すると早くも狭いゴルジュ帯となり、水に浸かったり、ヘツったり、軽く泳いだり、攀じ登ったり、足を突っ張ったりと非常に忙しい！！あっ、忙しいと楽しい



は同意語なので、これはこの溪に対する誉め言葉である！！溪相も実にキレイで、ゴーロや河原は全く存在せず、溪の楽しい部分のみを凝縮した実にシャープな溪である。もし、関東にあったら超人気の溪となることは間違いないだろう。

ただ、丸山沢同様に我々の力量だと安全のためにロープを出す場所が多く、メンバーが多いだけに時間はあっという間に過ぎていく。ちょっと微妙な小滝や淵の通過は数えきれないほどあり、そのたびにロープやお助けを出す。10mクラスの大滝も2本あり、最初の大滝は右壁を難なく登れるが、2本目の深い釜を持つナメ滝は一筋縄にはいかない。最初、右岸を高巻こうと思い、僕が取付いてみたが、岩盤の上に薄く土とパヤパヤの草が付いた実に不安定で急な壁で、アイスハンマーも刺さらず、足場も悪く登ることができず途方に暮れる。（登る場所を間違えたのだろうか？何となく人が登った後のように見えたので、そこを登ろうとしたが、手掛かりも足場も不安定で登れる気がしなかった。）

■写真上・中 ゴルジュは続くよ どこまでも！！

■写真下 美しい2段滝も頭と体を使って登って行く！！

結局、ここはカンちゃんがファイト一発で泳いで左壁から取付き、途中から右の水流に移りこの滝を直登！！枯松沢の核心部であ



った。

カンちゃん、ギリギリの登攀に思わずガッツポーズ！！下で我々メンバーは拍手喝采！！あとで調べてみるとこの滝には様々な記述がある。曰く「直登不能な滝で右岸をきわどく高巻く。」、曰く「右の水流沿いを突っ張りで登る。」、曰く「左壁をぬめりに注意しながら直登。」

要は決まったルートはなく、その時の条件やパーティーの力量、得手不得手によって登り方が様々だということだ。それにしても、特筆すべきは同じ日に登った単独の方のヤマレコの記録の記述で「泳いで取付くが、滝に上がるのに手掛かりがなく足場も決まらず苦勞した。ただ、一段上がればその後は難なく登った。」という記述はいったいどこを登ったのかぜひ教えてもらいたいところだ。我々が見落とした登りやすいルートがあったのだろうか？それとも、この単独の方の登攀技術が凄いのか？我々はカンちゃんのファイト一発で何とか超えたが、それすらギリギリのきわどい登攀だったのだ。

■写真上 溪が少し開けると美しいナメ床が広がる！！

■写真中 ナメ地帯で漸く一本！！

■写真下 この溪最大の10m滝、ここは、右壁から難なく登れる！！

ここはメンバーを滝上からロープで確保するにあたり、ロープの流れる向きが



悪く、なおかつ泳ぎパートもあったため一考を要した。結局、僕が途中の安定して立てる位置まで降りて、泳ぎパートと下部登攀の確保を受け持ち、滝上部の登攀は滝上でカンちゃん確保することで何とか全員を安全に登ってもらうことができたが、ここの登攀で全員登るのに1時間10分を費やすことになった。

さて、ムチの後にはア
メ！！溪は少し穏やかになり、美しいナメ床が現れ、心が癒される。メリハリのある良い溪である。

ただ、この時点ですでに時間は12:30。本来、本流を進む大回りルートを考えていたが、時間的に、一般的に登られているショートカットルートを選択せざるを得ない状況である。

否、それすらも、うかうかしてられない状況である。ということで、750m付近で出会う右岸の枝沢に登ることにする。

■写真上 再びゴルジュ。

■写真中 この溪最大の核心部、深い釜をもったナメ滝！！

■写真下 カンちゃん、ファイト一発で直登！！写真の上の右の水流が核心、ラバーを信じて攀じ登る！！

この枝沢に入ると溪相は一気に変わり、水量は少なく、黒っぽい岩肌となる。今までの美しい溪はなりを潜め、お世辞にも美しい溪とは言えず、薄汚れた感じの沢となる。

ただ、傾斜は急峻で、それなりに気を使う滝も連続し、側壁も相変わらず高く、高巻きしにくい地形が続く。ロー



プを出す機会も相変わらず多く、時間はどんどん過ぎていく。

急いでいるからといって安全は第一、丁寧にこの枝沢を登り、尾根を乗越して登山道に出たのが15:20。この枝沢だけで、標高差たかだか250m程に3時間近くもかかってしまった。エスケープ感覚で入った枝沢だったが、これは想定外に大苦戦であった。

■写真上 カンちゃん曰く「もう滝は充分です!!!」

■写真中 核心越えた癒しのナメで一息入れる。



ここからの下山は歩きやすい道が続いていて約1時間で下山。楽で助かった。ただ、すでに、今日中に帰京できるかどうか怪しい時間である。ということで、はなはだ残念ではあるが、楽しみにしていた温泉はタイムアウトでおあずけ……。それより、今日中に帰宅することが第一優先となる。夏油温泉の方から

「ぜひ入って行って下さい」との嬉しい声を泣く泣く振り切り、17:00に夏油温泉を出発。逃げ急げ!!ここからは関東大帰しである。ナビの東川口着時間は23:50、この時間自体かなり微妙で、何かあったら完全アウトである。空腹が幸いして眠気も起きず、途中、安達太良SAに立ち寄っただけで食事もせずに走り抜け、何と22:00には東川口駅で解散!!全員無事その日のうちに帰宅したとさ。

さて、枯松沢も丸山沢同様に緩みのないアトラクション豊富で美しく素晴らしい渓であった。(雰囲気は全く違う渓であったが、それが逆にまた素晴らしかった!!)

安全に突破するため、時間はかなりかかってしまったが、それは第一優先なので仕方がないことである。僕的には好印象だったので、もし、次回があるのなら、余裕を持って楽しむのと、温泉を満喫するために夏油温泉をベースにして3~4人くらいの少人数で、枯松沢やもう一つの評判のいい沢、ウシロ沢を巡ってみたいと思う。

今回、mさんやTさんにとって限界ギリギリの山行だったにもかかわらず、なんとかついてきていただきホント有難うございました!!今度はもう少し楽な場所を選びますのでまたご一



緒して下さい。A原さんもいつも付き合ってくれて有難う！！引き続きまた宜しくお願いします。最後に、カンちゃん、お世話になりました。ファイト一発、有難うございました！！丸山沢は今度、ぜひ完全遡行しましょう！！

■写真上 枝沢も気が抜けない滝が多かった！！

■写真下 道に出たぞおー！！

■コースタイム

夏油温泉 (6:00) ~ (7:38)

枯松沢入渓 (7:50) ~

(9:48) 10m大滝~

(11:03) 深い釜の10mナメ滝 (核心部) (12:10) ~

(12:15) 750m二俣

(12:25) ~ (13:20) 黒い8

m滝~ (15:20) 登山道~

(16:30) 夏油温泉

